

令和2年度 国立中央青少年交流の家 教育事業

富士のさと LAKE CAMP

令和2年8月8日(土)～8月9日(日) 1泊2日



○目的

新型コロナウイルス禍の中で感染防止に努めながら、テント宿泊や野外炊事などの体験活動を通して、自主性・協調性を学ぶ。

山中湖1周ハイキングを通して、自然の雄大さ・魅力を感じる。



【全体集合写真】

○参加者

小学生(5～6年生 17名)

○本事業の取り組み

当所で養成したボランティアを中心に子供対象のプログラムの一部を企画・立案し当日の運営を行う。
新しい活動プログラムを考案、実施する。(職員)
(長期事業が実施できず1泊2日の事業となった為)

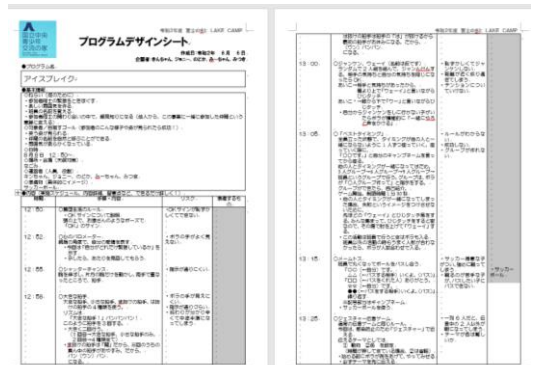


【実地踏査の様子】

○キャンプの企画立案

ボランティアを3つのセクションに分け、セクションごとに情報共有をしながら、以下のことを行った。

- ・プログラムの選定、構成
- ・プログラムデザインシートの作成
- ※ねらいや手順、想定されるリスクと対応などを記載
特に、参加者がどういう姿になれば良いのかを重視
- ・職員を交えてセクション別のミーティング
- ・全体進行表、セクション別日程表の作成
- ・活動のための資料作成



【プログラムデザインシート】

○キャンプ当日の運営

1日目【8月8日(土)】



<はじめの会>

新しい出会いにドキドキ



<アイスブレイク>

グループ内で「はじめまして」



<テント設営>

協力してテント組み立てに挑戦



<体験プログラム①>

自然を感じるネイチャーすごろく



<夕食づくり>

薪割体験&カレー作り



<ふりかえり>

明日のハイキングの計画づくり

2日目【8月9日（日）】



<体験プログラム② 山中湖1周ハイキング>

自然を満喫しながらみんなで協力して歩き切ったぞ！



<おわりの会>

楽しかった、また会おうね

《参加者の感想》

- ・コロナで自由に活動できない中、こういう自由なキャンプはすごく楽しかった。
- ・ひとつひとつのプログラムが全て楽しく、良い思い出ができました。今までよりも、自分に進歩が見つかったと思います。
- ・スタッフ（ボランティア）の人たちの対応が優しかったです。
- ・ハイキングは疲れたけど、ゴールした時は「やって良かった」と思いました。大変だったけれど、みんなで生活できて良かった。

《成果と課題》

- ボランティアと社会教育実習生が企画運営の一部を担うことで、一層コミュニケーションを大切にしながら準備を進めることができた。
- 活動の中で適宜振り返りをする場を設け、自分達で良かった点や課題を共有した。2日目のハイキングでは、どの班も協力しながら全員が山中湖1周を歩き切ることができた。
- 新しいプログラムを取り入れることで、利用者に提供できる物品やプログラムが増えた。
- 特に安全管理が必要なプログラム（薪割り）は事前に情報共有をし、全員が参加者に指導ができるように練習する機会を設けた。
(事業に参加していないボランティアにも情報共有する予定)
- ハイキングに関して、適宜休憩や給水を行うよう計画したが、時間通りに実施できなかった。歩く速さや週末の周辺の状況確認などを更に念入りに行う必要があった。
- 新型コロナウイルス感染症にくわえ、熱中症の予防にも努めながらの実施となった。様々な事態を想定し、有事の際に適切な対応ができるように、所全体で安全管理に関して共通理解を図りたい。